

## アカシアは懐メロの花

アカシアの花といえば、西田佐知子。と思いきや、「アカシアの雨が止む時」の歌詞をいくら読んでも、「花」が出てこない。

「アカシアの雨にうたれて このまま死んでしまいたい・・・」

なんともやるせない歌詞である。同じ題の日活映画が世に出たのが、1963年とか。覚えているわりには、遠い昔の出来事。

ところで、この「アカシア」はニセアカシアだろう。アカシアは南方系の植物だが、耐寒性の強い、北海道でもよく育つニセアカシアの方がこの歌にふさわしい。しかし、「ニセ」がついた名前はいかにも印象が悪いので、ハリエンジュと呼ぶ。

ニセアカシアは、明治に入ってすぐ、北アメリカから渡来し、並木や砂防林として植えられた。今では野生化したものもある。東広島での花期は5月で、周辺にとっても快い香りを放つ。

「アカシア」は、広島大学の東広島キャンパスにも植えられている。キャンパス東南部に位置する工学部と生物生産学部が多い。



工学部西（谷）側のニセアカシア 03年5月13日撮影



「アカシア」の花

バス停「大学会館前」から、背後の緩やかな坂を上ると、左側が大学会館。さらに進むと自転車止めがあり、その先に「アカシア」並木がある。右が工学部の講義室、左が谷で松林になっている。松林の道を下りていくと、「ふれあいビオトープ」につく。

バス停に戻って「ががら口」方向に進むと、生物生産学部がある。道路の両側には、「アカシア」が並び立つ。



生物生産学部南側の「アカシア」並木。すでに花が散り始めていた。09年5月14日撮影

